

国際地域イノベーター人材養成プログラム 科目概要

⑧ 観光コンシェルジュ実習

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター

社会協働部門長 奥平 理

【前期】観光コンシェルジュ実習Ⅰ

〈1〉観光ガイド3団体からの講義

5月25日の講義では、函館市内の観光ガイド3団体から各団体の活動内容等の説明があった。観光ボランティア「一會の会」の三本木元様より「おもてなし」と「コンシェルジュ」の意味と重要性について、自然倶楽部の鎌鹿隆美様より「リスクマネジメント」の重要性、函館善意通訳会の高橋典之様より英語で善意通訳会の活動内容について、それぞれ説明を頂戴した。講義後、学生たちはゲストスピーカーの皆様より激励のお言葉を頂戴したり、質問に回答をいただいたりするなど、実地ガイド実習に向けてとても参考になったと話していた。



自然倶楽部 鎌鹿様の講義

〈2〉まちあるき体験実習「本学と亀田川の関係を知る」

6月2日には、奥平が本授業のために造成した「本学と亀田川の関係を知る」まちあるきコースを使用して、学生たちは実際に奥平のガイド付まちあるきを体験した。その際に自然倶楽部の鎌鹿様も同行していただき、充実のまちあるき体験実習となった。終了後に学生たちは、身近なところに意外な自然や遺構が残っていることに初めて気づいたと話していたのが印象的であった。

〈3〉作業実習「ガイドコース造成」

6月8日と15日は「ガイドコース造成」のためのグループワーク授業を行った。学生7名を3班に分け、これまでに奥平が造成した元町地区・湯川地区・谷地頭地区・五稜郭地区のまちあるき配付資料を提示して、各班に4地区から実際に案内する地区を選定させた。その結果、五稜郭・谷地頭・元町の3地区が選定され、学生たちは文献調査や実地検分など、実地ガイド実習に必要なコース造成を行った。

〈4〉実地ガイド実習

6月29日に元町地区、7月6日に五稜郭地区、13日に谷地頭地区でそれぞれ「実地ガイド実習」を実施した。今年は天候が不順で、元町地区と谷地頭地区は雨天の中 で実習を行った。そのような天候でも、学生たちは「ガイドコース造成」作業で調べ上げて、自分たちで造成したコースを楽しむかのように、自信を持って説明を行っていた。



谷地頭地区の実習風景

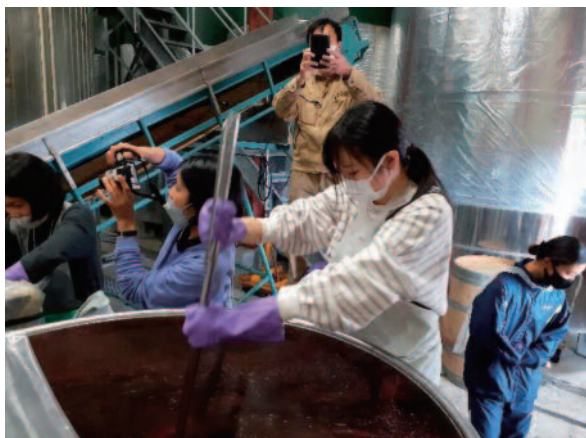
【後期】観光コンシェルジュ実習Ⅱ

〈1〉OEP大沼エデュケーションパーク準備室との協働を実施

後期は来年度から並行実施される「観光まちづくり実習」への移行を考慮し、OEP大沼エデュケーションパーク準備室の穴澤剛行様や鍋谷雪子様をはじめとするメンバーの皆様との協働によりインタープリター養成塾（人材育成事業）の一環として実習授業を展開中である。また、2022年10月から2023年2月の間に6回、大学生リーダーが大沼で子ども達とキャンプ生活を共にした。子ども達に寄り添いながら、七飯・大沼の6次産業化と観光との接点をインタープリテーションという手法から見出すことを目的として実習を行った。

〈2〉実習の事例

10月15日～16日の実習では、1日目に第1回キックオフや、「水から始まるまちづくり」をテーマに、空と町に関する共通の価値観形成や、株式会社はこだてワインでのワイン仕込み体験、自転車でのダウンヒル体験など、翌日に行う実習内容に触れてから子供たちと合流した。2日目には、「雨水はふもとはどのような形で現れるのか」を子どもたちに理解してもらうために、城岱展望台から大中山湧水、そしてこの日感謝祭を実施している白石農園まで移動した。道中、学生たちはインタープリターとして積極的に子どもたちに説明していた。農園で大根を掘り、それらを販売し、売り上げで感謝祭の売り物を購入するという経験を、子どもたちだけではなく、学生たちも我がことのように楽しんでいたのは印象的であった。



はこだてワインの仕込み



城岱展望台



大中山湧水



白石農園での大根掘り

前期、学生たちは見事にガイドを務め、実習を成功裏に終わらせることができた。これも本学関係の皆様や観光ガイド3団体の皆様の温かいご支援とご協力、ご指導の賜物である。また後期の実習では、穴澤剛行様や鍋谷雪子様とOEP大沼エデュケーションパーク準備室の皆様にご世話になった。皆様にはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。